

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成27年9月29日
【事業年度】	第55期（自平成26年7月1日至平成27年6月30日）
【会社名】	株式会社自重堂
【英訳名】	JICHODO Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 出原 正信
【本店の所在の場所】	広島県福山市新市町大字戸手16番地の2
【電話番号】	0847(51)8111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役業務本部本部長 谷口 郁志
【最寄りの連絡場所】	広島県福山市新市町大字戸手16番地の2
【電話番号】	0847(51)8111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役業務本部本部長 谷口 郁志
【縦覧に供する場所】	株式会社自重堂東京支店 (東京都港区海岸三丁目3番15号) 株式会社自重堂大阪支店 (大阪府中央区南船場二丁目5番23号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	平成23年 6 月	平成24年 6 月	平成25年 6 月	平成26年 6 月	平成27年 6 月
売上高 (千円)	16,897,024	18,355,082	17,589,017	17,661,651	17,006,188
経常利益 (千円)	1,461,014	2,833,902	3,584,058	2,476,798	3,694,394
当期純利益 (千円)	849,085	1,468,283	2,274,454	1,545,479	2,504,733
包括利益 (千円)	1,047,669	1,567,880	2,857,997	1,930,111	2,930,777
純資産額 (千円)	22,661,995	23,689,485	26,006,268	27,380,994	29,116,844
総資産額 (千円)	33,119,302	31,488,144	32,996,689	34,462,958	37,568,996
1株当たり純資産額 (円)	1,470.77	1,537.64	1,688.26	1,777.66	1,923.90
1株当たり当期純利益金額 (円)	53.35	95.30	147.64	100.33	162.90
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.4	75.2	78.8	79.5	77.5
自己資本利益率 (%)	3.7	6.3	9.2	5.8	8.9
株価収益率 (倍)	14.9	9.5	6.6	10.9	7.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	77,633	4,752,107	2,878,920	1,145,135	1,387,836
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	248,869	2,167,121	452,734	156,244	580,146
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,533,531	543,454	545,292	544,825	1,189,357
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	7,491,549	4,352,000	7,194,739	7,824,635	5,878,936
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	326 (64)	320 (61)	321 (54)	313 (54)	292 (97)

(注) 1. 売上高には消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	平成23年6月	平成24年6月	平成25年6月	平成26年6月	平成27年6月
売上高 (千円)	16,896,721	18,353,603	17,587,845	17,660,087	17,005,195
経常利益 (千円)	1,352,500	2,737,713	3,152,015	2,288,533	3,332,965
当期純利益 (千円)	789,020	1,407,306	2,017,619	1,435,146	2,217,458
資本金 (千円)	2,982,499	2,982,499	2,982,499	2,982,499	2,982,499
発行済株式総数 (株)	17,653,506	17,653,506	17,653,506	17,653,506	17,653,506
純資産額 (千円)	22,029,096	22,983,819	25,041,213	26,319,545	27,733,832
総資産額 (千円)	30,943,455	29,813,148	31,389,474	31,797,114	33,433,701
1株当たり純資産額 (円)	1,429.70	1,491.84	1,625.61	1,708.74	1,832.52
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	35.00 (-)	35.00 (-)	35.00 (-)	55.00 (-)	50.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	49.58	91.34	130.97	93.17	144.22
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.2	77.1	79.8	82.8	83.0
自己資本利益率 (%)	3.5	6.3	8.4	5.6	8.2
株価収益率 (倍)	16.0	9.9	7.5	11.7	8.3
配当性向 (%)	70.6	38.3	26.7	59.0	34.7
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	291 (55)	288 (49)	288 (44)	278 (43)	260 (86)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第54期の1株当たり配当額には、創立90周年記念配当20円を含んでおります。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
大正13年 9月	出原安太郎が広島県芦品郡新市町（現広島県福山市）に合名会社自重堂を設立し、作業服、学生服用小倉地の製織を開始。
昭和10年 1月	合名会社自重堂を個人経営に改める。
昭和25年 4月	戦後の経済統制令解除により、作業服・学生服の縫製・販売を開始。
昭和30年 6月	学生服の製造販売を中止し、メンズウェアとくにスラックス部門へ進出。
昭和35年 7月	株式会社自重堂（資本金8,000千円）を設立。
昭和43年 1月	メンズスラックスの量販店向け販路拡大を図るため、東京都世田谷区に東京出張所を開設。（昭和46年7月東京支店に昇格し、東京都品川区へ移転）
昭和44年10月	自社生産能力のアップのため、長崎県松浦市に松浦工場を新設。
昭和47年 7月	第二の販売拠点として、大阪市東区（現中央区）に大阪営業所を開設。（昭和50年7月大阪支店に昇格）
昭和54年 3月	売上高の増加に伴い、更に生産体制の強化を進めるため、長崎県北松浦郡福島町（現長崎県松浦市）に子会社、株式会社玄海ソーイングを設立。
昭和55年 7月	本社社屋及び物流センター完成。
昭和58年 7月	自社生産能力アップのため、広島県芦品郡新市町（現広島県福山市）に新市場を設置。
昭和59年 8月	ユニフォーム部門生産力アップのため、広島県福山市に子会社、株式会社川口ソーイングを設立。
平成 4年 1月	ユニフォーム部門の国内生産体制強化のため、佐賀県伊万里市に子会社、株式会社オービットを設立。
平成 4年 3月	売上増加に伴い、ユニフォーム部門の備蓄力、メンズウェア部門の物流力強化のため、広島県深安郡神辺町（現広島県福山市）に物流センター（TOC）を設置。
平成 6年 2月	生産性向上、コスト低減を図るため新市場は生産活動を中止し、技術開発センターとして発足。
平成 6年 2月	広島証券取引所に株式を上場。
平成 6年12月	海外生産体制強化のため中国江蘇省に子会社、昆山自重堂时装有限公司を設立。
平成 7年 2月	大阪証券取引所市場第二部に株式を上場。
平成 7年 4月	福利厚生施設として、広島県芦品郡新市町（現広島県福山市）にふれあいセンター（研修センター）を設置。
平成 8年 9月	ユニフォームの海外製品の開発輸入を目的として、広島県芦品郡新市町（現広島県福山市）に子会社、株式会社ジェイエフシーを設立。
平成 9年 9月	メンズウェアの海外製品の開発輸入を目的として広島県深安郡神辺町（現広島県福山市）に子会社、株式会社ジェイアイディを設立。（平成10年5月広島県芦品郡新市町（現広島県福山市）に移転）
平成10年 5月	新本社ビル完成。
平成10年12月	関東地区の営業力強化を目的として、東京都港区に自重堂ビルを完成し、東京支店を移転。
平成11年 7月	医療用白衣の製造販売を開始。
平成11年 8月	本社及び技術開発センターにおいて、ISO14001の認証を取得。
平成12年 3月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
平成16年 9月	関西地区の営業力強化を目的として、大阪市中央区に自重堂ビルを取得し、大阪支店を移転。
平成17年 1月	セーフティスニーカーの製造販売を開始。
平成18年11月	松浦工場を閉鎖し、株式会社オービットを解散。ともに株式会社玄海ソーイングに統合。
平成19年 1月	株式会社ジェイエフシーと株式会社ジェイアイディを、株式会社ジェイアイディを存続会社として合併。
平成20年 5月	株式会社川口ソーイングを解散。
平成20年 6月	昆山自重堂时装有限公司の持分を全て売却。
平成20年 6月	環境省より、産業廃棄物の広域認定制度の認定を取得。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、株式会社自重堂（当社）、子会社2社及び関連会社1社により構成されており、ユニフォーム及びメンズウェアの企画、製造、販売を主な内容とした事業活動を行っております。

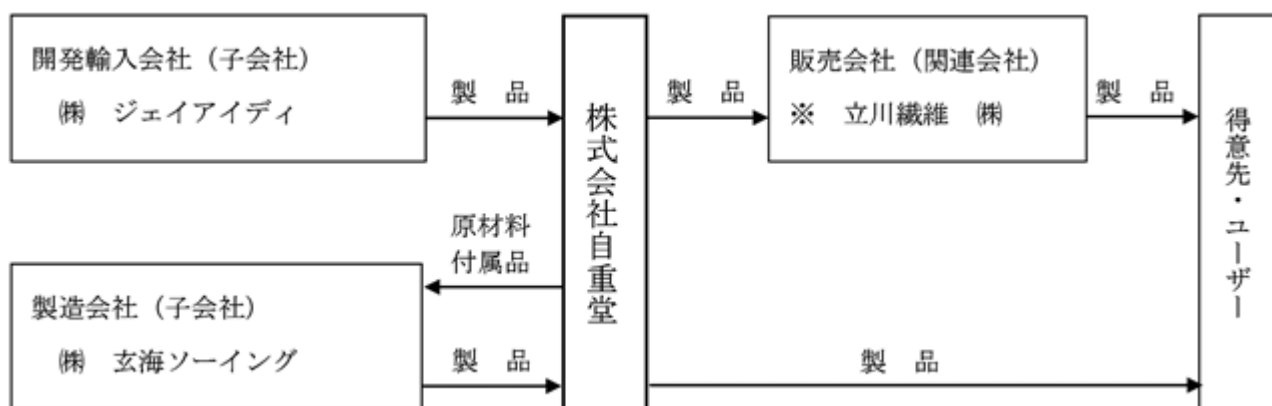
なお、当社グループは衣料品製造販売事業の単一セグメントであります。

事業内容と当社及び関係会社の当該事業に係る位置づけは、次のとおりであります。

区分	事業内容	主要な会社
ユニフォーム製品及びメンズウェア製品の製造業	ユニフォーム製品及びメンズウェア製品の一貫生産及びパーツの組立て	当社 ㈱玄海ソーイング
ユニフォーム製品及びメンズウェア製品の販売業	ユニフォーム製品及びメンズウェア製品の販売	当社 立川繊維㈱
ユニフォーム製品及びメンズウェア製品の輸入業	ユニフォーム及びメンズウェアの海外製品の開発輸入	当社 ㈱ジェイアイディ

概要図

事業システムの概要図は次のとおりであります。



（注） 無印 連結子会社
持分法非適用会社

4【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容					
					役員の兼任		資金援助 (千円)	営業上 の取引	設備の 賃貸借	その他
					当社 役員 (名)	当社 従業員 (名)				
㈱玄海ソーイング	長崎県松浦市	10,000	縫製業	100	3	-	-	当社製品の製造	建物・土地等の貸与	-
㈱ジェイアイディ	広島県福山市	80,000	ユニフォームの開発輸入	100	3	1	1,867,293	当社製品の輸入	建物の貸与	-

（注）1．㈱ジェイアイディは特定子会社に該当しております。

2．連結子会社のうち有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成27年6月30日現在

部門の名称	従業員数(人)
販売部門	103(3)
製造部門	86(18)
物流部門	57(75)
管理部門	46(1)
合計	292(97)

- (注) 1. 当社及び連結子会社は、衣料品製造販売事業の単一セグメントであるため、部門別の従業員数を記載しております。
2. 従業員数は就業者数であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
3. 前連結会計年度末に比べ販売部門の従業員数が29名、製造部門の従業員数が13名、それぞれ減少し、管理部門の従業員数が19名増加しております。これは平成27年4月に入社した新入社員の各部門への配属時期を変更したことにより、新入社員18名を管理部門に含めているためであります。

(2) 提出会社の状況

平成27年6月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
260(86)	40.1	16.8	4,199,510

部門の名称	従業員数(人)
販売部門	103(3)
製造部門	54(7)
物流部門	57(75)
管理部門	46(1)
合計	260(86)

- (注) 1. 当社は、衣料品製造販売事業の単一セグメントであるため、部門別の従業員数を記載しております。
2. 従業員数は就業者数であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
3. 平均年間給与(税込)には、基準外賃金及び賞与が含まれております。
4. 前事業年度末に比べ、販売部門の従業員数が29名、製造部門の従業員数が10名、それぞれ減少し、管理部門の従業員数が19名増加しております。これは平成27年4月に入社した新入社員の各部門への配属時期を変更したことにより、新入社員18名を管理部門に含めているためであります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、UIゼンセン同盟自重堂労働組合と称し、平成27年6月30日現在の組合員数は209名であります。

労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、円安の進行により、輸出企業を中心に業績の改善がみられるものの、消費税増税後の消費回復の遅れなどから内需企業は苦戦が続いており、業績の二極化が進行しています。更なる円安の進行も懸念され、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

このような状況のもと当社グループにおきましては、販売機会ロスを低減するために積み増した豊富な在庫を武器に積極的な営業活動を展開するとともに、顧客のニーズを捉えた新商品の開発と市場への投入を積極的に推進し、売上・利益の拡大に努めてまいりました。また、新商品の販促キャンペーンを実施するなど、広告宣伝活動を積極的に行い、ブランド認知度の向上を図るとともに、企業イメージの向上による売上・市場シェアの拡大を図ってまいりました。次世代戦略ブランド「Jawin(ジャウイン)」については、元プロ野球選手、メジャーリーガーの新庄剛志氏をイメージキャラクターに起用した効果もあり、認知度も向上し、販売代理店、ユーザーの皆様から高い評価を得ております。更には、安全靴や、医療用白衣・介護ウェアの商品開発を積極的に推進し、販売を強化するなど、事業構造の転換を進めてまいりました。

生産面におきましては、円安の進行や、素材価格の高騰、中国や東南アジアにおける工賃の上昇などに伴うコストアップに対応するため、生産体制の見直しを進め、新規協力工場の開拓を強化するなど、製造コストの低減と品質管理体制の強化に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高は17,006百万円(前連結会計年度比3.7%減)となり、事業構造の転換を進めたことにより、ユニフォームは順調に売上を伸ばしているものの、メンズカジュアルの売上の落ち込みをカバーしきれず、若干前年を下回る結果となりました。営業利益は、事業構造の転換に伴い若干販管費率が低下したことなどにより、1,981百万円(前連結会計年度比0.5%減)と減益ではありますが、ほぼ前年並みとなりました。経常利益は、輸入取引に係る為替変動リスクをヘッジする目的で行っております為替予約取引に係る時価評価によるデリバティブ評価益が前期に比べ855百万円増加したことなどにより、3,694百万円(前連結会計年度比49.2%増)となり、当期純利益は過去最高益を更新し、2,504百万円(前連結会計年度比62.1%増)となりました。

なお、当社グループは衣料品製造販売事業の単一セグメントに該当するため、セグメント情報は記載しておりません。

(注) 上記記載金額には、消費税等を含んでおりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という)の期末残高は前連結会計年度より1,945百万円減少し、5,878百万円(前連結会計年度比24.9%減)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は1,387百万円(前連結会計年度は1,145百万円の獲得)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益3,914百万円、減価償却費151百万円、売上債権の減少285百万円、仕入債務の増加623百万円等による増加と、有価証券売却益400百万円、デリバティブ評価益929百万円、たな卸資産の増加3,541百万円、法人税等の支払額741百万円等による減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は580百万円(前連結会計年度は156百万円の使用)となりました。これは主に投資有価証券の売却による収入1,004百万円等による増加と、有形固定資産の取得による支出168百万円等による減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1,189百万円(前連結会計年度は544百万円の使用)となりました。これは主に、自己株式の取得による支出334百万円、配当金の支払額845百万円等による減少によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは、衣料品製造販売事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の生産実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)	前年同期比(%)
衣料品製造販売事業(千円)	288,155	29.6

(注) 1. 金額は、販売価格により算出しており、消費税等を含んでおりません。

2. 当連結会計年度において、衣料品の生産実績が著しく減少しております。これは、生産体制の見直しを進めて、海外からの生産仕入へのシフトを進めたことによるものであります。

(2) 製品仕入実績

当社グループは、衣料品製造販売事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の製品仕入実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)	前年同期比(%)
衣料品製造販売事業(千円)	8,101,437	7.6

(注) 金額は、仕入価格により算出しており、消費税等を含んでおりません。

(3) 受注実績

当社グループは、主として需要見込みによる生産を行っているため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

当社グループは、衣料品製造販売事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)	前年同期比(%)
衣料品製造販売事業(千円)	17,006,188	3.7

(注) 販売実績金額には、消費税等を含んでおりません。

3【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く環境は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けたインフラ整備の推進などにより、作業服の更新需要が拡大していくものと予想されますが、中長期的には少子高齢化に伴い国内労働人口の減少が見込まれるなど、依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

このような環境のもと当社グループといたしましては、厳しい競争を勝ち抜き、持続的な成長を実現するために、主力事業であるワーキングウェア事業においては、圧倒的なマーケットシェアの獲得に向け、「JICHODO（ジチョウドウ）」ブランド、「Jawin（ジャウイン）」ブランドを中心に自社ブランドの育成・強化を進め、更にセーフティスニーカーの商品開発を強化してまいります。作業服の主要ユーザーである製造業・建設業に携わる労働者が減少傾向にあることに対応するため、成長産業である、医療・介護分野での商品開発を進め事業領域の拡大を図ってまいります。

こうした成長戦略を確実に進めていくために、社内体制の整備・強化を進めてまいります。業務のシステム化を推進し、特に物流業務の効率化・合理化を進めてまいります。また、海外生産体制の更なる強化と、国内生産における短納期体制の構築・強化により、機会ロスの低減に努力してまいります。あわせて、品質管理体制の再強化を進めてまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 特定の地域への生産の依存について

当社グループは、衣料用繊維製品の製造・販売を主な事業内容としておりますが、その製品の多くが海外拠点において生産されております。現在海外生産拠点の分散化を推進してはおりますが、現状では、特に中華人民共和国に集中しております。当該国における何らかの要因により生産活動に支障が生じた場合には、他地域への生産の振替を行う必要が発生いたしますが、振替がスムーズに行えなかった場合、当社グループの業績及び今後の事業展開に悪影響を与える可能性があります。

(2) 為替変動について

当社グループは輸入仕入比率が高く、仕入価格は直接又は間接的にUSドル及び人民元と連動していることから、為替変動の影響を受け仕入コストが変動する要因となります。このため、為替予約取引によりリスクヘッジを行っておりますが、これにより当該リスクを完全に回避できるものではありませんので、為替の動向により当社の業績に影響を与える可能性があります。

(3) デリバティブ取引について

当社グループにおきましては、輸入取引に係る為替変動のリスクに対応するため、デリバティブ取引を実施しております。デリバティブ取引については、時価による損益処理を行っておりますので、各期末における為替レートや日米金利差等により評価損益が計上され、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 棚卸資産等の評価について

当社グループにおきましては、需要予測による見込み生産を行っております。過去の実績や市況の動向などを勘案し、生産量を算定しておりますが、市況の急激な変化や天候不順などの理由により見込み違いとなる可能性があります。その結果、棚卸資産の増加や、見切り販売による利益率の低下などにより財政状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 株式保有について

当社グループは、金融機関や販売または仕入に係る取引会社の株式を保有しているため、株式市場の価格変動リスクを負っております。

5【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高につきましては、概ね計画どおりに推移し、前連結会計年度に比べ655百万円減少し17,006百万円となりました。

売上総利益は、売上高が減少したことにより、前連結会計年度に比べ170百万円減少し5,084百万円となりました。

営業利益は、販売費及び一般管理費が160百万円減少したものの、売上総利益が減少したことにより、前連結会計年度に比べ10百万円減少し1,981百万円となりました。

経常利益は、営業外収益がデリバティブ評価益の増加などにより前連結会計年度に比べ1,224百万円増加したこと等により、前連結会計年度に比べ1,217百万円増加し、3,694百万円となりました。

当期純利益は、税金等調整前当期純利益が1,425百万円増加したこと等により、前連結会計年度に比べ959百万円増加し2,504百万円となりました。

(2) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当連結会計年度においては、前述の「4. 事業等のリスク」に記載した需要予測に大きな差異は発生せず、また、海外における生産についても計画どおり順調に推移いたしましたので、経営成績に重要な影響を与える要因は発生しておりません。

(3) 経営戦略の現状と見通し

日本の経済は回復傾向にあるものの、中長期的には少子高齢化に伴う国内労働人口の減少が見込まれるなど、先行きは不透明な状況が続くものと想定されます。

当社グループといたしましては、圧倒的なマーケットシェアの獲得に向け自社ブランドの育成・強化を進め、更にセーフティスニーカーの商品開発を強化してまいります。また、成長産業である医療・介護分野での商品開発を進め事業領域の拡大を図ってまいります。

生産面においては、引き続き新規工場の開拓を積極的に進め、製造コストの低減と品質管理体制の強化に努めてまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、1,387百万円の資金を使用しております。投資活動によるキャッシュ・フローでは、投資有価証券の売却などにより580百万円の資金を獲得しており、財務活動によるキャッシュ・フローでは、配当金の支払額などにより1,189百万円の資金を使用しております。これにより現金及び現金同等物は前連結会計年度に比べ1,945百万円減少し5,878百万円となりました。資金残高は適正水準であると判断しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度においては、177百万円の設備投資を実施いたしました。そのうち主なものは、社員駐車場用地の取得に伴うものであります。

なお、当社グループは、衣料品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの設備投資等の概要は記載しておりません。

なお、設備投資の金額には消費税等を含んでおりません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

なお、当社及び連結子会社は衣料品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメントの名称は記載しておりません。

(1) 提出会社

(平成27年6月30日現在)

事業所名 (所在地)	業務及び設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
		建物及び構築物 (千円)	機械装置及び運搬具 (千円)	土地		その他 (千円)	合計 (千円)	
				金額 (千円)	面積 (㎡)			
本社 (広島県福山市)	全社管理・販売及び物流業務	585,614	1,746	1,280,606	17,670.87	98,192	1,966,159	115 (14)
東京支店 (東京都港区)	販売業務 賃貸設備	285,337	11,947	1,075,239	933.00	18,039	1,390,563	30 (-)
大阪支店 (大阪市中央区)	販売業務 賃貸設備	386,640	5,421	356,605	565.97	2,798	751,465	17 (-)
TOC (広島県福山市)	物流業務	589,695	18,076	755,909	22,534.70	19,374	1,383,056	75 (65)
技術開発センター (広島県福山市)	製造業務	13,420	0	30,253	1,079.00	1,447	45,121	23 (7)
- (長崎県松浦市)	賃貸設備	27,654	1,450	72,088	11,559.62	1,100	102,293	-

(2) 国内子会社

(平成27年6月30日現在)

会社名 事業所名 (所在地)	業務及び設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
		建物及び構築物 (千円)	機械装置及び運搬具 (千円)	土地		その他 (千円)	合計 (千円)	
				金額 (千円)	面積 (㎡)			
㈱玄海ソーイング 本社及び工場 (長崎県松浦市)	製造業務	-	877	-	-	-	877	20 (11)
㈱ジェイアイディ 本社 (広島県福山市)	開発輸入業務	-	-	-	-	54	54	12 (-)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品及びリース資産であります。

2. 提出会社の本社中には、㈱ジェイアイディに貸与中の建物1,789千円を含んでおります。

3. 提出会社の東京支店中には、連結会社以外の者に貸与中の建物152,940千円を含んでおります。

4. 提出会社の大阪支店中には、連結会社以外の者に貸与中の建物270,648千円を含んでおります。

5. ㈱玄海ソーイングは上記設備のほか提出会社より、建物及び構築物27,654千円、機械装置及び運搬具1,450千円、土地72,088千円(11,559.62㎡)、その他1,100千円を賃借しております。

6. 現在休止中の主要な設備はありません。

7. 従業員数の()は、臨時従業員数の年間の平均人員を外書しております。

8. 記載金額には、消費税等を含んでおりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,721,000
計	36,721,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成27年9月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,653,506	同左	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	17,653,506	同左	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成12年11月16日	2,399,000	17,653,506	-	2,982,499	1,655,310	1,827,189

(注) 自己株式の資本準備金消却による減少であります。

(6)【所有者別状況】

平成27年6月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	11	10	83	4	-	726	834	-
所有株式数 (単元)	-	2,967	38	6,068	114	-	8,290	17,477	176,506
所有株式数の 割合(%)	-	16.98	0.22	34.72	0.65	-	47.43	100.00	-

(注) 1. 自己株式2,519,253株は、「個人その他」に2,519単元及び「単元未満株式の状況」に253株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ1単元及び260株含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成27年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
出原正博	広島県福山市	2,539	14.38
出原ホールディングス株式会社	東京都品川区小山7丁目7-19	2,454	13.90
株式会社広島銀行 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	広島市中区紙屋町1丁目3-8 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	759	4.30
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	753	4.27
伊藤忠商事株式会社	東京都港区北青山2丁目5-1	586	3.32
住友生命保険相互会社 (常任代理人 日本トラスティ・ サービス信託銀行株式会社)	東京都中央区築地7丁目18-24 (東京都中央区晴海1丁目8-11)	518	2.93
有限会社ユーエルディー	広島県福山市新市町大字戸手16-12	482	2.73
株式会社岡村製作所	横浜市西区北幸2丁目7-18	399	2.26
野口市子	広島市南区	301	1.71
自重堂社員持株会	広島県福山市新市町大字戸手16-2	293	1.66
計	-	9,086	51.47

(注) 上記のほか、自己株式が2,519千株あります。

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,519,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,958,000	14,957	-
単元未満株式	普通株式 176,506	-	1単元(1,000株)未 満の株式
発行済株式総数	17,653,506	-	-
総株主の議決権	-	14,957	-

(注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の株式数の欄は、全て当社所有の自己株式であります。

2. 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれておりますが、当該株式に係る議決権1個については、議決権の数の欄からは除いております。

【自己株式等】

平成27年 6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社自重堂	広島県福山市新市 町大字戸手16-2	2,519,000	-	2,519,000	14.3
計	-	2,519,000	-	2,519,000	14.3

(9)【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成27年5月21日)での決議状況 (取得期間 平成27年5月22日)	300,000	373,800,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	264,000	328,944,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	36,000	44,856,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	12.0	12.0
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	12.0	12.0

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないもの内容】
会社法第155条第7号の規定に基づく単元未満株式の買取請求による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	4,602	5,227,398
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	2,519,253	-	2,519,253	-

(注) 保有自己株式数には、平成27年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増しによる株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社の配当政策の基本的な考え方は、株主への安定配当を継続するとともに、経営基盤の強化と安定的な収益確保のため内部留保を向上させることにあります。

当社は、期末配当の年1回の配当を行うことを基本方針としております。この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度(第55期)の配当につきましては、1株につき50円の配当を実施することといたしました。この結果、当事業年度の配当性向は34.7%となりました。

内部留保資金につきましては、今後の事業への有効投資に活用してまいりたいと存じます。

当社は、「取締役会の決議により、毎年12月31日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成27年9月25日定時株主総会決議	756,712	50

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	平成23年6月	平成24年6月	平成25年6月	平成26年6月	平成27年6月
最高(円)	896	985	1,100	1,340	1,350
最低(円)	760	743	860	881	1,005

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年1月	2月	3月	4月	5月	6月
最高(円)	1,083	1,105	1,149	1,235	1,280	1,350
最低(円)	1,020	1,032	1,082	1,144	1,160	1,180

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 11名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長	最高経営責任 者(CEO) 営業本部本部長	出原 正貴	昭和39年1月18日生	昭和62年4月 全日本空輸(株)入社 平成10年7月 当社入社 平成12年7月 営業推進室室長 平成12年9月 取締役営業推進室室長 平成14年7月 常務取締役営業本部本部長 平成16年9月 専務取締役営業本部本部長 平成19年9月 取締役副社長営業本部本部長 平成22年7月 代表取締役社長営業本部本部長 平成26年9月 代表取締役会長最高経営責任者(CEO)兼営業本部本部長(現任)	(注)4	100
代表取締役 社長	商品本部本部長	出原 正信	昭和42年6月13日生	平成2年4月 (株)日本興業銀行(現(株)みずほ銀行)入行 平成14年6月 カリフォルニア大学バークレー校MBA取得 平成14年8月 日本ペイント(株)入社 F P事業部マーケティング部部長 平成16年7月 当社入社 常任顧問 平成16年9月 取締役 平成17年7月 常務取締役 平成19年9月 専務取締役 平成22年7月 取締役副社長商品本部本部長 平成26年9月 代表取締役社長商品本部本部長(現任)	(注)4	212
専務取締役	業務本部本部長	谷口 郁志	昭和33年2月22日生	昭和56年4月 当社入社 平成11年7月 経営企画室室長 平成11年9月 取締役経営企画室室長 平成14年7月 常務取締役業務本部本部長 平成24年9月 専務取締役業務本部本部長(現任)	(注)4	18
常務取締役	ユニフォーム 事業部事業部長兼大阪支店 支店長	粟根 幹夫	昭和26年1月15日生	昭和48年2月 当社入社 平成20年7月 ユニフォーム事業部事業部長 平成20年9月 取締役ユニフォーム事業部事業部長 平成21年7月 取締役ユニフォーム事業部事業部長兼大阪支店支店長 平成26年9月 常務取締役ユニフォーム事業部事業部長兼大阪支店支店長(現任)	(注)4	19
取締役 相談役	-	出原 正博	昭和29年2月15日生	昭和51年4月 (株)日本不動産銀行(現(株)あおぞら銀行)入行 平成10年4月 同行 資産監査室長 平成10年6月 当社入社 平成10年9月 取締役 平成12年9月 代表取締役専務業務本部本部長 平成14年9月 代表取締役社長 平成18年7月 (株)玄海ソーイング代表取締役社長(現任) 平成22年7月 代表取締役 平成22年9月 代表取締役副会長 平成23年10月 (株)ジェイアイディ代表取締役会長(現任) 平成26年9月 取締役相談役(現任)	(注)4	2,539
取締役 最高顧問	-	出原 群三	昭和13年8月15日生	昭和36年4月 (株)明電舎入社 昭和45年4月 当社監査役(非常勤) 昭和46年8月 取締役東京支店支店長 昭和50年7月 専務取締役東京支店支店長 昭和62年7月 代表取締役副社長 平成5年9月 代表取締役社長 平成14年9月 代表取締役会長最高経営責任者(CEO) 平成26年9月 取締役最高顧問(現任)	(注)4	17

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	-	渡辺 林治	昭和41年11月18日生	平成2年4月 ㈱野村総合研究所入社 平成11年11月 シュローダー投信投資顧問(現シュローダー・インベストメント・マネジメント(株))入社 平成21年3月 リンジーアドバイス(株)代表取締役社長(現任) 平成27年8月 アスクル(株)監査役(現任) 平成27年9月 当社取締役(現任)	(注)4	-
取締役	-	鈴木 一穂	昭和45年1月15日生	平成4年4月 ㈱日本興業銀行(現㈱みずほ銀行)入行 平成22年10月 Edgebell Capital(株)代表取締役(現任) 平成27年4月 Global Bridging合同会社代表(現任) 平成27年9月 当社取締役(現任)	(注)4	-
監査役 (常勤)	-	唐川 善忠	昭和22年3月30日生	昭和40年2月 当社入社 平成4年7月 経理部部长 平成20年9月 監査役(現任)	(注)5	10
監査役	-	佐藤 泰三	昭和15年2月5日生	昭和33年4月 ㈱広島銀行入行 平成7年6月 同行取締役 平成10年6月 ひろぎん不動産(株)代表取締役社長 平成15年6月 ミサワホーム中国(株)取締役 平成20年9月 当社監査役(現任)	(注)5	-
監査役	-	高橋 正倫	昭和30年11月1日生	昭和57年11月 アーサーヤング公認会計士共同事務所東京事務所入所 昭和60年12月 税理士登録 平成14年5月 税理士法人高橋会計事務所開設 代表社員所長(現任) 平成20年9月 当社監査役(現任)	(注)5	-
計						2,918

- (注) 1. 代表取締役会長 出原正貴及び代表取締役社長 出原正信は取締役最高顧問 出原群三の実子であります。
2. 取締役 渡辺林治及び取締役 鈴木一穂は、社外取締役であります。
3. 監査役 佐藤泰三及び監査役 高橋正倫は、社外監査役であります。
4. 平成27年9月25日開催の定時株主総会后、1年以内に終了する最終の事業年度に関する定時株主総会の終結の時までであります。
5. 平成24年9月27日開催の定時株主総会后、4年以内に終了する最終の事業年度に関する定時株主総会の終結の時までであります。
6. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数(千株)
金井 浩	昭和13年12月18日生	昭和58年8月 ㈱CBS・ソニーファミリークラブ(現㈱ライトアップショッピングクラブ)代表取締役社長 平成5年1月 同社代表取締役社長 退任	5

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、株主、取引先、従業員、地域社会などのすべての利害関係者から信頼される企業であり続けるために、経営の透明性を高め、企業価値の向上を図るよう努力しております。その手段として、コーポレート・ガバナンスの充実、経営の重要課題と考えております。

(1) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

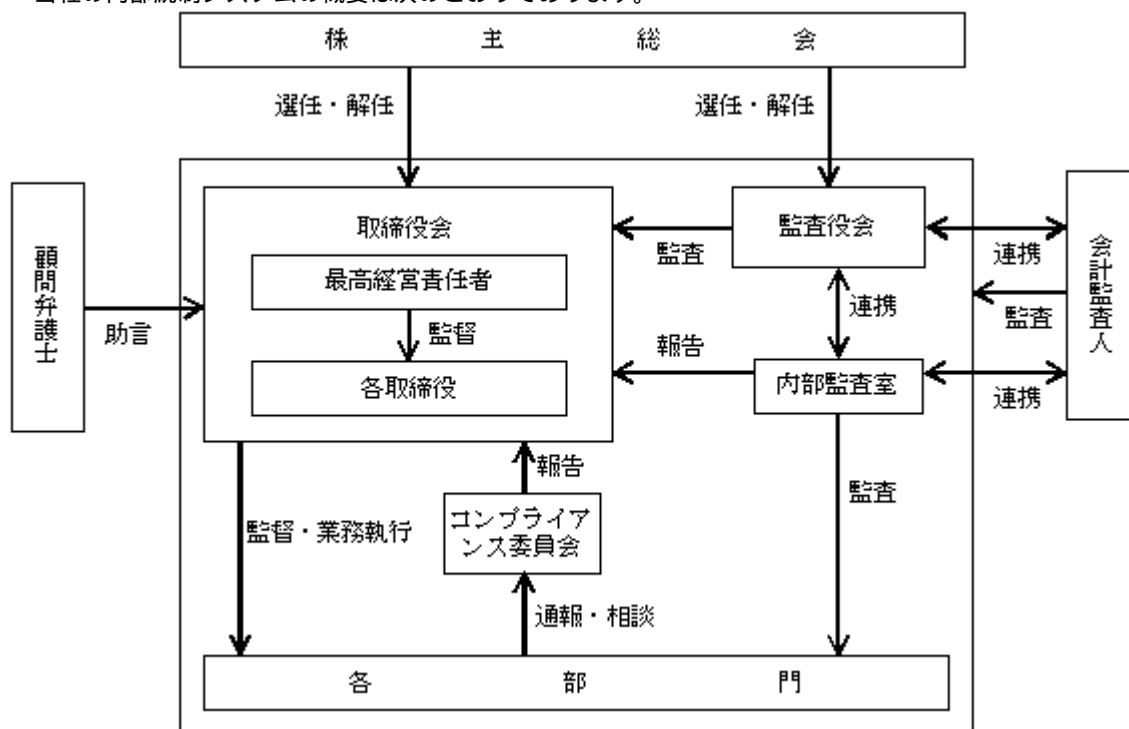
会社の機関の基本説明

当社は、取締役・監査役制度を採用しております。取締役会は社外取締役2名を含む8名で構成されております。取締役会は、会社の重要な業務執行の決定を行うとともに、各取締役の業務遂行状況を監督しており、原則として月1回開催しております。

監査役会は社外監査役2名を含む3名で構成されております。監査役は、取締役会を始めとして、すべての重要な会議に出席し、取締役の業務遂行を十分に監視できる体制となっております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの概要は次のとおりであります。



内部監査及び監査役監査の状況

内部統制システムの充実を図るため、社長直轄部門として内部監査室を設け1名で運営しており、監査計画に基づき、業務執行部門の活動全般にわたり内部監査を実施し、業務の適正化及び効率化に向け具体的助言を行っており、さらに、監査の有効性の向上を図るため、監査役会、会計監査人及び顧問契約を結んでいる弁護士との情報交換を実施しております。監査結果についての社長及び執行責任者への報告も定期的に行っております。

当社の監査役監査につきましては、常勤監査役を中心として、毎月開催される取締役会など重要な会議への出席、重要書類の閲覧、本社、支店各部門へのヒアリングを行っております。また、当社監査役は、会計監査人から監査計画及び監査結果について報告並びに説明を受け、情報交換を行うなど連携を図っております。

なお、常勤監査役唐川善忠氏は、当社の経理部に昭和40年6月から平成20年9月まで在籍し、通算43年にわたり決算手続並びに財務諸表の作成等に従事しておりました。また、監査役高橋正倫氏は、税理士の資格を有しております。

会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。業務を執行した公認会計士は柴田良智氏、中原晃生氏であり、会計監査業務に係わる補助者は、公認会計士10名、公認会計士試験全科目合格者7名であります。

会社と社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。社外取締役2名並びに社外監査役2名につきましては、就任前に当社の役員又は使用人となったことがない外部からの招聘であります。

当社の社外取締役である渡辺林治氏は、現役の経営者であり、豊富な海外ビジネス経験によるグローバルな視点を有しており、また、国内の流通市場に関する専門的な見識を有した人材であります。その豊富な経験と幅広い見識を、当社の経営への助言や業務執行の監督等に活かして頂くため、社外取締役に選任しております。

当社の社外取締役である鈴木一穂氏は、現役の経営者であり、豊富な海外ビジネス経験によるグローバルな視点を有しており、また、国際金融に関して幅広い人脈と経験、見識を有した人材であります。その豊富な経験と幅広い見識を、当社の経営への助言や業務執行の監督等に活かして頂くため、社外取締役に選任しております。

当社の社外監査役である佐藤泰三氏は、当社の取引銀行である株式会社広島銀行の出身であります。退任後10年以上経過しており、当社も株式会社広島銀行からの借入れはなく、年間の取引額も僅少であるため、独立性に問題はないと考えております。なお、佐藤泰三氏は、元会社経営者として他社での経営経験等に基づき、取締役会及び監査役会において適切な助言・提言を期待できることから、社外監査役に選任しております。

当社の社外監査役である高橋正倫氏は、税理士であり、税理士法人高橋会計事務所の代表を務めております。なお、高橋正倫氏は、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、税理士としての経験に基づき、取締役会及び監査役会において適切な助言・提言を期待できることから、社外監査役に選任しております。

社外取締役2名及び社外監査役2名と当社との間に特別の利害関係はなく、一般株主と利益相反の生じるおそれはないと判断しております。なお、社外取締役渡辺林治氏、鈴木一穂氏、社外監査役高橋正倫氏の3名を独立役員に指定し、株式会社東京証券取引所に届け出ております。

当社は、社外取締役及び社外監査役の選任にあたり、東京証券取引所の企業行動規範に定める独立性の基準に照らして一般株主と利益相反が生じるおそれがない者で、かつ、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった役割が期待できるものを選任しております。

社外取締役は、各部門からの業務報告、内部監査室からの内部監査の報告及び監査役からの監査報告等を受け、独立した視点で経営の監視、監督を行います。

社外監査役は、それぞれ専門的な立場から監査を実施しております。また、効率的かつ効果的な監査役監査を行うために、会計監査人及び内部監査室と情報の交換を含む緊密な協力関係を構築しております。なお、内部統制部門からは、内部統制の運用状況についての報告を監査役会で受け、意見交換を行うことにより連携を図っております。

社外取締役及び社外監査役の専従スタッフは特に設けておりませんが、業務本部で対応しております。

(2) リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制の一層の強化を図るため、「コンプライアンス委員会」の組織体制の見直しを行いました。また、定期的に委員会を開催し、各部門におけるリスクの洗い出し、マニュアル等の整備状況の確認を行うとともに、全社員に対してコンプライアンスに関する教育を定期的に行っております。

(3) 役員報酬等の内容

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役員 の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	352,200	352,200	-	-	-	6
監査役 (社外監査役を除く。)	6,600	6,600	-	-	-	1
社外役員	1,200	1,200	-	-	-	2

(注) 1. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2. 当社は、平成18年9月27日開催の第46期定時株主総会終結の時をもって取締役及び監査役の役員退職慰労金制度を廃止しております。

役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関する方針は定めておりませんが、各職位に応じた職責や、経験、在任期間、会社業績などを総合的に判断して算定しております。なお、平成18年9月27日開催の第46期定時株主総会において、取締役の報酬限度額は年額550,000千円以内、監査役の報酬限度額は年額30,000千円以内と決議頂いております。

(4) 社外取締役及び社外監査役との責任限定契約

当社は、社外取締役及び社外監査役との間で、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には、法令に定める額を限度として賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めておりますが、提出日現在において当該契約を締結しておりません。

(5) 取締役の定数

当社の取締役は8名以内とする旨定款に定めております。

(6) 取締役の選解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、取締役の選任決議は累積投票によらない旨を、また、取締役の解任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

(7) 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

自己株式の取得

当社は、事業環境の変化に対応した機動的な経営を遂行するため、自己株式の取得について、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元ができるよう、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年12月31日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(8) 株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 35銘柄 貸借対照表計上額 2,945,819千円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)岡村製作所	625,000	555,625	取引関係の強化
伊藤忠商事(株)	283,632	369,006	取引関係の強化
ブラザー工業(株)	206,668	362,702	取引関係の強化
(株)広島銀行	470,319	227,634	財務活動の円滑化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	262,460	162,987	財務活動の円滑化
(株)イズミ	38,324	123,020	取引関係の強化
西川ゴム工業(株)	54,573	96,048	取引関係の強化
モリト(株)	170,000	82,110	取引関係の強化

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)しまむら	7,409	73,793	取引関係の強化
東レ(株)	100,000	66,600	取引関係の強化
(株)ライフコーポレーション	36,388	62,296	取引関係の強化
(株)平和堂	32,355	50,182	取引関係の強化
日清紡ホールディングス(株)	41,000	41,615	取引関係の強化
ナガイレーベン(株)	16,000	33,424	業界動向の把握
(株)クラレ	25,000	32,100	取引関係の強化
帝人(株)	112,000	28,448	取引関係の強化
シキボウ(株)	197,000	23,246	取引関係の強化
ユニグループ・ホールディングス(株)	28,209	17,912	取引関係の強化
倉敷紡績(株)	78,000	14,352	取引関係の強化
(株)ワークマン	2,000	11,400	業界動向の把握
イオン(株)	8,132	10,132	取引関係の強化
(株)オークワ	7,470	7,746	取引関係の強化
ゼビオ(株)	3,042	6,044	取引関係の強化
(株)フジ	2,200	4,677	取引関係の強化
はるやま商事(株)	6,300	4,529	取引関係の強化
福山通運(株)	5,000	2,915	取引関係の強化
(株)マルヨシセンター	2,000	756	取引関係の強化
(株)コーコス信岡	1,100	588	業界動向の把握
日鉄住金物産(株)	1,358	532	取引関係の強化

(注) みなし保有株式はありません。

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)岡村製作所	625,000	666,875	取引関係の強化
伊藤忠商事(株)	297,190	480,555	取引関係の強化
ブラザー工業(株)	206,668	358,362	取引関係の強化
(株)広島銀行	370,319	271,073	財務活動の円滑化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	262,460	230,912	財務活動の円滑化
モリト(株)	170,000	176,290	取引関係の強化
西川ゴム工業(株)	54,573	108,054	取引関係の強化
(株)平和堂	32,055	97,447	取引関係の強化
(株)しまむら	7,409	95,279	取引関係の強化
日清紡ホールディングス(株)	41,000	56,129	取引関係の強化
帝人(株)	112,000	53,200	取引関係の強化
(株)イズミ	8,324	43,035	取引関係の強化
ナガイレーベン(株)	16,000	37,632	業界動向の把握
(株)クラレ	25,000	37,425	取引関係の強化
東レ(株)	35,000	36,242	取引関係の強化
シキボウ(株)	197,000	25,413	取引関係の強化
ユニグループ・ホールディングス(株)	28,209	22,087	取引関係の強化
倉敷紡績(株)	78,000	20,436	取引関係の強化
イオン(株)	8,132	14,129	取引関係の強化
(株)ワークマン	2,000	13,460	業界動向の把握

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)オークワ	7,470	7,731	取引関係の強化
ゼビオ(株)	3,042	7,270	取引関係の強化
(株)フジ	2,200	5,115	取引関係の強化
はるやま商事(株)	6,300	4,813	取引関係の強化
(株)ライフコーポレーション	1,388	3,898	取引関係の強化
福山通運(株)	5,000	3,395	取引関係の強化
(株)マルヨシセンター	2,000	802	取引関係の強化
日鉄住金物産(株)	1,358	607	取引関係の強化

(注) みなし保有株式はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計上額 の合計額	貸借対照表計上額 の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
上場株式	1,473,938	1,216,789	29,676	398,269	582,352 (2,094)

(注) 「評価損益の合計額」の欄の()内に当事業年度の減損処理額を外数で記載しております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく 報酬(千円)	非監査業務に基づく報 酬(千円)	監査証明業務に基づく 報酬(千円)	非監査業務に基づく報 酬(千円)
提出会社	17,000	-	17,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	17,000	-	17,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年7月1日から平成27年6月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年7月1日から平成27年6月30日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】
(1) 【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,841,315	5,895,616
受取手形及び売掛金	5,537,667	5,251,827
有価証券	8,571	3,298
商品及び製品	7,254,454	9,926,377
仕掛品	5,815	6,240
原材料及び貯蔵品	2,120,469	2,989,809
繰延税金資産	178,936	200,483
その他	499,917	1,383,443
貸倒引当金	7,101	2,661
流動資産合計	23,440,049	25,654,435
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,932,441	7,932,976
減価償却累計額	5,898,017	6,021,853
建物及び構築物(純額)	2,034,424	1,911,123
土地	3,931,881	4,077,713
その他	741,599	767,424
減価償却累計額	569,874	586,897
その他(純額)	171,724	180,527
有形固定資産合計	6,138,029	6,169,363
無形固定資産	30,744	24,706
投資その他の資産		
投資有価証券	4,150,888	4,320,478
その他	751,831	1,445,502
貸倒引当金	48,584	45,490
投資その他の資産合計	4,854,134	5,720,490
固定資産合計	11,022,909	11,914,560
資産合計	34,462,958	37,568,996

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,352,790	4,976,525
未払金	315,789	264,393
未払法人税等	295,223	987,837
返品調整引当金	57,785	75,756
賞与引当金	156,757	150,962
その他	184,831	161,419
流動負債合計	5,363,177	6,616,895
固定負債		
退職給付に係る負債	561,563	567,084
繰延税金負債	282,196	398,520
その他	875,027	869,651
固定負債合計	1,718,787	1,835,256
負債合計	7,081,964	8,452,151
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,982,499	2,982,499
資本剰余金	1,827,578	1,827,578
利益剰余金	23,306,689	24,950,667
自己株式	1,904,417	2,238,589
株主資本合計	26,212,349	27,522,156
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,183,492	1,576,642
退職給付に係る調整累計額	14,848	18,045
その他の包括利益累計額合計	1,168,644	1,594,687
純資産合計	27,380,994	29,116,844
負債純資産合計	34,462,958	37,568,996

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	17,661,651	17,006,188
売上原価	5,612,407,101	5,611,921,675
売上総利益	5,254,550	5,084,513
販売費及び一般管理費	1,326,668	1,310,265
営業利益	1,991,882	1,981,862
営業外収益		
受取利息	1,474	1,318
受取配当金	85,497	85,858
有価証券売却益	30,073	400,309
受取賃貸料	63,422	61,713
為替差益	223,714	142,304
デリバティブ評価益	73,889	929,706
その他	70,680	152,489
営業外収益合計	548,753	1,773,700
営業外費用		
賃貸収入原価	62,189	59,911
その他	1,647	1,257
営業外費用合計	63,836	61,168
経常利益	2,476,798	3,694,394
特別利益		
固定資産売却益	27	-
投資有価証券売却益	31,220	222,446
特別利益合計	31,227	222,446
特別損失		
固定資産除却損	312	3162
固定資産売却損	4293	-
投資有価証券評価損	18,853	2,094
特別損失合計	19,159	2,257
税金等調整前当期純利益	2,488,866	3,914,583
法人税、住民税及び事業税	933,340	1,414,470
法人税等調整額	10,046	4,620
法人税等合計	943,386	1,409,850
少数株主損益調整前当期純利益	1,545,479	2,504,733
当期純利益	1,545,479	2,504,733

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,545,479	2,504,733
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	384,631	393,149
退職給付に係る調整額	-	32,894
その他の包括利益合計	384,631	426,043
包括利益	1,930,111	2,930,777
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,930,111	2,930,777

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,982,499	1,827,578	22,300,356	1,903,027	25,207,407
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,982,499	1,827,578	22,300,356	1,903,027	25,207,407
当期変動額					
剰余金の配当			539,147		539,147
当期純利益			1,545,479		1,545,479
自己株式の取得				1,390	1,390
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,006,332	1,390	1,004,942
当期末残高	2,982,499	1,827,578	23,306,689	1,904,417	26,212,349

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	798,860	-	798,860	26,006,268
会計方針の変更による累積的影響額				-
会計方針の変更を反映した当期首残高	798,860	-	798,860	26,006,268
当期変動額				
剰余金の配当				539,147
当期純利益				1,545,479
自己株式の取得				1,390
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	384,631	14,848	369,783	369,783
当期変動額合計	384,631	14,848	369,783	1,374,725
当期末残高	1,183,492	14,848	1,168,644	27,380,994

当連結会計年度（自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,982,499	1,827,578	23,306,689	1,904,417	26,212,349
会計方針の変更による累積的影響額			13,598		13,598
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,982,499	1,827,578	23,293,091	1,904,417	26,198,751
当期変動額					
剰余金の配当			847,157		847,157
当期純利益			2,504,733		2,504,733
自己株式の取得				334,171	334,171
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,657,576	334,171	1,323,404
当期末残高	2,982,499	1,827,578	24,950,667	2,238,589	27,522,156

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	1,183,492	14,848	1,168,644	27,380,994
会計方針の変更による累積的影響額				13,598
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,183,492	14,848	1,168,644	27,367,396
当期変動額				
剰余金の配当				847,157
当期純利益				2,504,733
自己株式の取得				334,171
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	393,149	32,894	426,043	426,043
当期変動額合計	393,149	32,894	426,043	1,749,448
当期末残高	1,576,642	18,045	1,594,687	29,116,844

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,488,866	3,914,583
減価償却費	155,742	151,795
貸倒引当金の増減額(は減少)	37,122	7,534
賞与引当金の増減額(は減少)	1,811	5,794
返品調整引当金の増減額(は減少)	3,569	17,971
退職給付引当金の増減額(は減少)	484,225	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	538,577	19,197
受取利息及び受取配当金	86,972	87,176
有価証券売却損益(は益)	30,073	400,309
固定資産売却損益(は益)	285	-
投資有価証券評価損益(は益)	18,853	2,094
デリバティブ評価損益(は益)	73,889	929,706
売上債権の増減額(は増加)	194,692	285,840
たな卸資産の増減額(は増加)	317,462	3,541,687
仕入債務の増減額(は減少)	652,579	623,734
その他	502,909	776,694
小計	2,515,183	733,684
利息及び配当金の受取額	86,854	87,294
法人税等の支払額	1,456,902	741,446
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,145,135	1,387,836
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	16,680	16,680
定期預金の払戻による収入	21,680	16,680
有形固定資産の取得による支出	14,813	168,807
有形固定資産の売却による収入	81	-
無形固定資産の取得による支出	6,467	657
投資有価証券の取得による支出	109,690	64,306
投資有価証券の売却による収入	106,077	1,004,507
投資有価証券の償還による収入	200	-
その他	136,631	190,589
投資活動によるキャッシュ・フロー	156,244	580,146
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	1,390	334,171
配当金の支払額	539,047	845,947
その他	4,387	9,239
財務活動によるキャッシュ・フロー	544,825	1,189,357
現金及び現金同等物に係る換算差額	185,830	51,348
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	629,896	1,945,699
現金及び現金同等物の期首残高	7,194,739	7,824,635
現金及び現金同等物の期末残高	7,824,635	5,878,936

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

連結子会社の社名は「第1 企業の概況4. 関係会社の状況」に記載しております。

2. 持分法の適用に関する事項

関連会社1社については、連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、この会社に対する投資について持分法を適用せず、原価法により評価しております。

なお、持分法非適用会社名は、「第1 企業の概況3. 事業の内容」に記載しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

全ての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ. デリバティブ

時価法を採用しております。

ハ. たな卸資産

主として月次総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び連結子会社は定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 15~50年

ロ. 無形固定資産(リース資産を除く)

当社及び連結子会社は定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

ハ. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

当社及び連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 返品調整引当金

当社は、製品の返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案し、返品見込額利益相当額を計上しております。

ハ. 賞与引当金

当社及び連結子会社は、従業員に支給する賞与に充てるため、支給対象期間に応じた支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から損益処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理
税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間における年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

なお、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債及び利益剰余金に与える影響額並びに、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響額については軽微であります。

また、当連結会計年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額に与える影響は軽微であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「営業外収益」の「業務受託料」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において「営業外収益」の「業務受託料」に表示していた6,052千円は、「その他」として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
投資有価証券(株式)	0千円	0千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年7月1日 至平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自平成26年7月1日 至平成27年6月30日)
役員報酬・給料	1,148,293千円	1,088,148千円
荷造運搬費	424,902	338,717
広告宣伝費	295,123	367,404
貸倒引当金繰入額	27,618	4,081
賞与引当金繰入額	122,343	114,553
退職給付費用	57,738	51,731

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月30日)
その他	7千円	- 千円

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月30日)
その他	12千円	162千円

4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月30日)
その他	293千円	- 千円

5 次の返品調整引当金の繰入額が売上原価に含まれております(は戻入額)。

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月30日)
	3,569千円	17,971千円

6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月30日)
	33,777千円	47,251千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月30日)
その他有価証券評価差額金 :		
当期発生額	552,466千円	1,110,590千円
組替調整額	42,440	620,662
税効果調整前	594,906	489,928
税効果額	210,274	96,778
その他有価証券評価差額金	384,631	393,149
退職給付に係る調整額 :		
当期発生額	-	30,979
組替調整額	-	5,665
税効果調整前	-	36,645
税効果額	-	3,751
退職給付に係る調整額	-	32,894
その他の包括利益合計	384,631	426,043

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成25年7月1日至平成26年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	17,653,506	-	-	17,653,506
合計	17,653,506	-	-	17,653,506
自己株式				
普通株式(注)	2,249,296	1,355	-	2,250,651
合計	2,249,296	1,355	-	2,250,651

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,355株は単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年9月26日 定時株主総会	普通株式	539,147	35.00	平成25年6月30日	平成25年9月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年9月26日 定時株主総会	普通株式	847,157	利益剰余金	55.00	平成26年6月30日	平成26年9月29日

当連結会計年度(自平成26年7月1日至平成27年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	17,653,506	-	-	17,653,506
合計	17,653,506	-	-	17,653,506
自己株式				
普通株式(注)	2,250,651	268,602	-	2,519,253
合計	2,250,651	268,602	-	2,519,253

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加のうち4,602株は単元未満株式の買取りによるものであり、264,000株は取締役会決議に基づく自己株式の取得によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年9月26日 定時株主総会	普通株式	847,157	55.00	平成26年6月30日	平成26年9月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年9月25日 定時株主総会	普通株式	756,712	利益剰余金	50.00	平成27年6月30日	平成27年9月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
現金及び預金勘定	7,841,315千円	5,895,616千円
預入期間が3か月を超える定期預金	16,680	16,680
現金及び現金同等物	7,824,635	5,878,936

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、社用車(有形固定資産「その他」)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については原則として預金等を中心として元本が保証されるか若しくはそれに準じる安定的な運用成果の得られるものを対象としております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券は、主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが半年以内の支払期日であります。一部外貨建のものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建の営業債務の為替変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理細則に従い、営業債権について、各事業部門における営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、主要取引銀行を取引の相手方としているため、信用リスクはほとんどないと判断しております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建の営業債務について、為替の変動リスクに対して、為替予約取引を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券については、毎月時価の把握を行っております。

デリバティブ取引については、当社においては、所定の手続に従い、経理部が取引を担当し、重要な取引内容については、取締役会等において報告が行われます。連結子会社においては、所定の手続に従い、連結子会社の財務部門が担当しており、必要に応じて当社経理部に確認のうえ実行しております。また、取引状況、残高等についてグループ会議において定期的に報告が行われております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提状況等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に係る契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成26年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	7,841,315	7,841,315	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,537,667		
貸倒引当金(*1)	6,340		
	5,531,327	5,531,327	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	4,082,742	4,082,742	-
資産計	17,455,386	17,455,386	-
(1) 支払手形及び買掛金	4,352,790	4,352,790	-
(2) 未払金	315,789	315,789	-
(3) 未払法人税等	295,223	295,223	-
負債計	4,963,802	4,963,802	-
デリバティブ取引(*2)	340,467	340,467	-

(*1)受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度（平成27年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	5,895,616	5,895,616	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,251,827		
貸倒引当金(*1)	1,532		
	5,250,294	5,250,294	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	4,252,332	4,252,332	-
資産計	15,398,243	15,398,243	-
(1) 支払手形及び買掛金	4,976,525	4,976,525	-
(2) 未払金	264,393	264,393	-
(3) 未払法人税等	987,837	987,837	-
負債計	6,228,756	6,228,756	-
デリバティブ取引(*2)	1,270,174	1,270,174	-

(*1)受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金並びに(2) 未払金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
非上場株式	68,146	68,146
投資事業有限責任組合	8,571	3,298

これらについては市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成26年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,828,685	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,537,667	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他	-	-	50,475	-
合計	13,366,353	-	50,475	-

当連結会計年度(平成27年6月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,873,935	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,251,827	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他	-	-	50,235	-
合計	11,125,762	-	50,235	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成26年6月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	3,791,456	1,957,668	1,833,788
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	136,378	114,964	21,413
	小計	3,927,834	2,072,632	1,855,202
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	154,908	178,272	23,364
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	154,908	178,272	23,364
合計		4,082,742	2,250,905	1,831,837

当連結会計年度(平成27年6月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	4,006,611	1,714,400	2,292,210
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	157,869	115,734	42,135
	小計	4,164,480	1,830,135	2,334,345
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	87,851	100,431	12,579
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	87,851	100,431	12,579
合計		4,252,332	1,930,566	2,321,765

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	101,856	61,293	-
合計	101,856	61,293	-

当連結会計年度（自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	1,003,037	620,716	-
(2) 債券	2,000	2,000	-
(3) その他	270	40	-
合計	1,005,307	622,756	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、投資有価証券について18,853千円（その他有価証券の株式18,853千円）の減損処理を、当連結会計年度において、投資有価証券について2,094千円（その他有価証券の株式2,094千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨（金利）関連

前連結会計年度（自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日）

区分	種類	契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超 （千円）	時価 （千円）	評価損益 （千円）
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	10,217,545	6,076,470	340,467	340,467
	合計	10,217,545	6,076,470	340,467	340,467

（注） デリバティブ取引の時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度（自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日）

区分	種類	契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超 （千円）	時価 （千円）	評価損益 （千円）
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	13,463,265	10,177,470	1,270,174	1,270,174
	合計	13,463,265	10,177,470	1,270,174	1,270,174

（注） デリバティブ取引の時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度及び退職一時金制度を採用しております。

確定給付制度及び退職一時金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は簡便法により退職給付に係る負債を計算していません。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月 30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月 30日)
退職給付債務の期首残高	538,759千円	561,563千円
会計方針の変更による累積的影響額	-	22,968
会計方針の変更を反映した期首残高	538,759	584,532
勤務費用	48,869	54,452
利息費用	10,065	4,108
数理計算上の差異の発生額	18,101	30,980
退職給付の支払額	18,029	45,028
退職給付債務の期末残高	561,563	567,084

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成26年 6月 30日)	当連結会計年度 (平成27年 6月 30日)
非積立制度の退職給付債務	561,563千円	567,084千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	561,563	567,084
退職給付に係る負債	561,563	567,084
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	561,563	567,084

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月 30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月 30日)
勤務費用	48,869千円	54,452千円
利息費用	10,065	4,108
数理計算上の差異の損益処理額	13,446	5,665
確定給付制度に係る退職給付費用	72,381	64,226

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 7月 1日 至 平成26年 6月 30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 7月 1日 至 平成27年 6月 30日)
数理計算上の差異	- 千円	36,645千円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年 6月 30日)	当連結会計年度 (平成27年 6月 30日)
未認識数理計算上の差異	22,985千円	13,660千円

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項
主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
割引率	1.0%	0.4%

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	57,090千円	49,707千円
棚卸資産未実現損益	65,314	50,102
その他	66,134	107,249
評価性引当額	9,602	6,575
計	178,936	200,483
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債	198,834	191,240
減価償却費	168,390	156,390
貸倒引当金	14,946	14,016
投資有価証券評価損	54,998	26,435
未払役員退職慰労金	132,983	120,586
減損損失	50,652	45,740
その他	19,048	17,269
評価性引当額	273,706	225,076
計	366,148	346,603
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	648,475	745,301
評価性引当額	130	177
計	648,345	745,123
繰延税金資産の純額	103,260	198,036

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度(平成26年6月30日)及び当連結会計年度(平成27年6月30日)において、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.4%から平成27年7月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については32.8%に、平成28年7月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.1%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額が11,838千円、繰延税金負債(繰延税金資産の金額を控除した金額)は42,257千円、それぞれ減少し、法人税等調整額が46,633千円、その他有価証券評価差額金が76,601千円、それぞれ増加し、退職給付に係る調整累計額が450千円減少しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務については、連結貸借対照表に与える影響が軽微であるため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む。)を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は1,232千円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は1,802千円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	1,727,959	1,710,382
期中増減額	17,577	22,829
期末残高	1,710,382	1,687,552
期末時価	1,561,974	1,554,346

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、衣料品製造販売を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%を超える主要な顧客がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
1株当たり純資産額	1,777円66銭	1,923円90銭
1株当たり当期純利益金額	100円33銭	162円90銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
純資産の部の合計額(千円)	27,380,994	29,116,844
純資産の部の合計額から控除する金額(千円) (うち少数株主持分)	- (-)	- (-)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	27,380,994	29,116,844
期末の普通株式の数(千株)	15,402	15,134

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
当期純利益(千円)	1,545,479	2,504,733
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,545,479	2,504,733
期中平均株式数(千株)	15,403	15,376

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	6,107	6,631	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	14,909	23,937	-	平成28年～平成33年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	21,016	30,569	-	-

(注) 1. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	6,337	6,337	6,337	3,205

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	3,613,523	8,382,859	12,210,525	17,006,188
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	758,709	2,587,013	2,809,522	3,914,583
四半期(当期)純利益金額 (千円)	471,979	1,656,465	1,754,459	2,504,733
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	30.64	107.55	113.91	162.90

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	30.64	76.90	6.36	49.04

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年6月30日)	当事業年度 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,851,328	3,419,785
受取手形	2,634,150	2,877,706
売掛金	2,824,797	2,403,118
有価証券	8,571	3,298
商品及び製品	7,413,278	10,061,960
仕掛品	5,381	6,193
原材料及び貯蔵品	158,098	138,121
繰延税金資産	106,312	146,042
その他	685,083	2,365,074
貸倒引当金	7,875	3,774
流動資産合計	20,679,127	21,417,526
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,015,339	1,894,263
構築物	19,084	16,859
機械及び装置	37,728	37,796
車両運搬具	1,394	846
工具、器具及び備品	111,778	113,031
土地	3,931,881	4,077,713
リース資産	19,530	27,921
有形固定資産合計	6,136,736	6,168,431
無形固定資産		
ソフトウェア	15,799	10,109
電話加入権	7,555	7,555
その他	7,188	6,831
無形固定資産合計	30,544	24,496
投資その他の資産		
投資有価証券	4,135,770	4,305,206
関係会社株式	170,000	170,000
出資金	200	200
長期前払費用	15,926	10,466
保険積立金	492,523	645,060
その他	184,871	737,803
貸倒引当金	48,584	45,490
投資その他の資産合計	4,950,706	5,823,246
固定資産合計	11,117,987	12,016,175
資産合計	31,797,114	33,433,701

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年6月30日)	当事業年度 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,607,304	1,403,349
買掛金	1,243,819	981,973
未払金	178,665	129,166
未払費用	86,538	79,359
未払法人税等	291,894	957,248
返品調整引当金	57,785	75,756
賞与引当金	155,109	142,385
その他	155,451	80,795
流動負債合計	3,776,569	3,850,034
固定負債		
長期末払金	375,660	375,660
繰延税金負債	290,340	402,908
退職給付引当金	535,632	577,802
その他	499,367	493,462
固定負債合計	1,701,000	1,849,833
負債合計	5,477,569	5,699,868
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,982,499	2,982,499
資本剰余金		
資本準備金	1,827,189	1,827,189
その他資本剰余金	388	388
資本剰余金合計	1,827,578	1,827,578
利益剰余金		
利益準備金	440,000	440,000
その他利益剰余金		
別途積立金	17,114,000	17,114,000
繰越利益剰余金	4,676,746	6,032,209
利益剰余金合計	22,230,746	23,586,209
自己株式	1,904,417	2,238,589
株主資本合計	25,136,406	26,157,698
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,183,138	1,576,133
評価・換算差額等合計	1,183,138	1,576,133
純資産合計	26,319,545	27,733,832
負債純資産合計	31,797,114	33,433,701

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当事業年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	17,660,087	17,005,195
売上原価	1, 2 12,631,949	1, 2 12,138,483
売上総利益	5,028,137	4,866,712
販売費及び一般管理費	1, 3 3,190,213	1, 3 3,023,001
営業利益	1,837,923	1,843,710
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	86,429	86,412
有価証券売却益	30,073	400,309
受取賃貸料	67,313	65,619
業務受託料	6,052	6,006
為替差益	83,615	101,799
デリバティブ評価益	165,162	709,969
その他	79,156	183,404
営業外収益合計	517,804	1,553,522
営業外費用		
賃貸収入原価	65,605	63,010
その他	1,590	1,257
営業外費用合計	67,195	64,267
経常利益	2,288,533	3,332,965
特別利益		
固定資産売却益	7	-
投資有価証券売却益	31,220	222,446
特別利益合計	31,227	222,446
特別損失		
固定資産除却損	12	162
固定資産売却損	293	-
投資有価証券評価損	18,853	2,094
特別損失合計	19,159	2,257
税引前当期純利益	2,300,601	3,553,154
法人税、住民税及び事業税	856,453	1,351,506
法人税等調整額	9,000	15,809
法人税等合計	865,454	1,335,696
当期純利益	1,435,146	2,217,458

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)		当事業年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
1. 材料費		225,234	23.6	167,792	22.7
2. 外注加工費		229,509	24.0	215,013	29.1
3. 労務費		320,639	33.6	278,537	37.7
(うち賞与引当金繰入額)		(32,921)		(28,276)	
(うち退職給付費用)		(14,075)		(12,134)	
4. 経費		179,349	18.8	77,291	10.5
(うち賃借料)		(222)		(230)	
(うち減価償却費)		(18,295)		(16,849)	
(うち租税公課)		(94,557)		(28,828)	
当期総製造費用		954,732	100.0	738,635	100.0
期首仕掛品たな卸高		14,875		5,381	
期末仕掛品たな卸高		5,381		6,193	
当期製品製造原価		964,226		737,824	

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,982,499	1,827,189	388	1,827,578	440,000	17,114,000	3,780,746	21,334,746
会計方針の変更による累積的影響額								-
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,982,499	1,827,189	388	1,827,578	440,000	17,114,000	3,780,746	21,334,746
当期変動額								
剰余金の配当							539,147	539,147
当期純利益							1,435,146	1,435,146
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	895,999	895,999
当期末残高	2,982,499	1,827,189	388	1,827,578	440,000	17,114,000	4,676,746	22,230,746

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,903,027	24,241,797	799,416	799,416	25,041,213
会計方針の変更による累積的影響額		-			-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,903,027	24,241,797	799,416	799,416	25,041,213
当期変動額					
剰余金の配当		539,147			539,147
当期純利益		1,435,146			1,435,146
自己株式の取得	1,390	1,390			1,390
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			383,721	383,721	383,721
当期変動額合計	1,390	894,609	383,721	383,721	1,278,331
当期末残高	1,904,417	25,136,406	1,183,138	1,183,138	26,319,545

当事業年度（自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,982,499	1,827,189	388	1,827,578	440,000	17,114,000	4,676,746	22,230,746
会計方針の変更による累積的影響額							14,837	14,837
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,982,499	1,827,189	388	1,827,578	440,000	17,114,000	4,661,908	22,215,908
当期変動額								
剰余金の配当							847,157	847,157
当期純利益							2,217,458	2,217,458
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	1,370,301	1,370,301
当期末残高	2,982,499	1,827,189	388	1,827,578	440,000	17,114,000	6,032,209	23,586,209

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,904,417	25,136,406	1,183,138	1,183,138	26,319,545
会計方針の変更による累積的影響額		14,837			14,837
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,904,417	25,121,568	1,183,138	1,183,138	26,304,707
当期変動額					
剰余金の配当		847,157			847,157
当期純利益		2,217,458			2,217,458
自己株式の取得	334,171	334,171			334,171
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			392,995	392,995	392,995
当期変動額合計	334,171	1,036,129	392,995	392,995	1,429,125
当期末残高	2,238,589	26,157,698	1,576,133	1,576,133	27,733,832

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ

時価法を採用しております。

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・仕掛品・原材料

月次総平均法(補助材料の一部については個別法)による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15~50年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 返品調整引当金

製品の返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案し、返品見込額利益相当額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給対象期間に応じた支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。)を当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間における年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を繰越利益剰余金に加減しております。

なお、当事業年度の期首の退職給付引当金及び繰越利益剰余金に与える影響額並びに、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響額については、軽微であります。

また、当事業年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額に与える影響は軽微であります。

(貸借対照表関係)

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分掲記したものを除く)。

	前事業年度 (平成26年6月30日)	当事業年度 (平成27年6月30日)
短期金銭債権	521,143千円	1,931,455千円
短期金銭債務	954,877	683,486

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当事業年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
関係会社に対する営業費用	6,334,082千円	11,229,973千円
関係会社との営業取引以外の取引高	34,919	51,268

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当事業年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
販売費及び一般管理費への振替高	830千円	320千円

3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度50%、当事業年度44%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度50%、当事業年度56%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当事業年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
役員報酬	360,000千円	360,000千円
給料手当	745,152	680,037
荷造運搬費	425,218	342,778
広告宣伝費	295,113	367,395
貸倒引当金繰入額	26,988	3,742
賞与引当金繰入額	117,905	107,583
退職給付費用	57,738	51,731
減価償却費	105,455	104,561

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式170,000千円、関連会社株式0千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式170,000千円、関連会社株式0千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年6月30日)	当事業年度 (平成27年6月30日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	54,908千円	46,702千円
その他	51,403	99,339
計	106,312	146,042
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	189,613	185,824
減価償却費	168,390	156,390
貸倒引当金	14,946	14,016
投資有価証券評価損	54,998	26,435
未払役員退職慰労金	132,983	120,586
減損損失	50,652	45,740
その他	19,041	17,266
評価性引当額	272,622	224,045
計	358,004	342,215
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	648,345	745,123
計	648,345	745,123
繰延税金資産の純額	184,028	256,866

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年6月30日)	当事業年度 (平成27年6月30日)
法定実効税率	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	35.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		0.4
住民税均等割		0.1
評価性引当額の増減額		1.4
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		1.3
その他		2.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率		37.6

3. 法人税等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引き下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.4%から平成27年7月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.8%に、平成28年7月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.1%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額が11,576千円、繰延税金負債(繰延税金資産の金額を控除した金額)は41,806千円、それぞれ減少し、法人税等調整額が46,371千円、その他有価証券評価差額金が76,601千円、それぞれ増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形 固定資産	建物	2,015,339	534	-	121,610	1,894,263	5,807,383
	構築物	19,084	-	-	2,225	16,859	214,469
	機械及び装置	37,728	6,400	154	6,177	37,796	251,892
	車両運搬具	1,394	-	0	548	846	14,080
	工具、器具及び備品	111,778	6,429	8	5,167	113,031	292,770
	土地	3,931,881	145,832	-	-	4,077,713	-
	リース資産	19,530	17,400	-	9,008	27,921	23,473
	計	6,136,736	176,596	162	144,738	6,168,431	6,604,069
無形 固定資産	ソフトウェア	15,799	657	-	6,347	10,109	-
	電話加入権	7,555	-	-	-	7,555	-
	その他	7,188	-	-	357	6,831	-
	計	30,544	657	-	6,705	24,496	-

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	56,460	12,567	19,763	49,264
返品調整引当金	57,785	75,756	57,785	75,756
賞与引当金	155,109	142,385	155,109	142,385

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

特記すべき事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	7月1日から6月30日まで
定時株主総会	9月中
基準日	6月30日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とします。ただし事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL http://www.jichodo.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の規定により、単元未満株主は、会社法第189条第2項に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利、募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の買増しを請求する権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第54期）（自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日）平成26年9月29日中国財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成26年9月29日中国財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第55期第1四半期）（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）平成26年11月13日中国財務局長に提出
（第55期第2四半期）（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）平成27年2月13日中国財務局長に提出
（第55期第3四半期）（自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日）平成27年5月14日中国財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
平成26年10月1日中国財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
平成27年2月10日中国財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）に基づく臨時報告書であります。
- (5) 臨時報告書の訂正報告書
平成27年2月12日中国財務局長に提出
平成27年2月10日提出の臨時報告書（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）に係る訂正報告書であります。
- (6) 自己株券買付状況報告書
報告期間（自平成27年5月1日 至平成27年5月31日）平成27年6月15日中国財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年9月25日

株式会社自重堂

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴田 良智	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中原 晃生	印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社自重堂の平成26年7月1日から平成27年6月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社自重堂及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社自重堂の平成27年6月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社自重堂が平成27年6月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年9月25日

株式会社自重堂

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴田 良智	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中原 晃生	印
--------------------	-------	-------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社自重堂の平成26年7月1日から平成27年6月30日までの第55期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社自重堂の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。